

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-86902

⑪ Int. Cl.⁴B 01 D 13/00
A 61 M 1/18
B 01 D 13/04

識別記号

庁内整理番号

D-8014-4D
6675-4C
F-8314-4D

⑬ 公開 昭和61年(1986)5月2日

審査請求 未請求 発明の数 2 (全4頁)

⑭ 発明の名称 多孔性中空糸膜及びその製法

⑮ 特 願 昭59-205601

⑯ 出 願 昭59(1984)10月2日

⑰ 発 明 者 河 西 俊 二 郎 大分市大字里2620番地 旭メデイカル株式会社内

⑱ 発 明 者 萩 原 武 明 大分市大字里2620番地 旭メデイカル株式会社内

⑲ 出 願 人 旭メデイカル株式会社 東京都千代田区内幸町1丁目1番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 佐々木 俊哲

明 細 書

1. 発明の名称

多孔性中空糸膜及びその製法

2. 特許請求の範囲

(1) 結晶性高分子を用いた延伸開孔法により得られた多孔性中空糸膜であって、

(a) バブルポイント法で測定した孔の最大孔径が
0.1 ~ 1.0 μ であり、(b) 延伸過程で発生する繊維長方向に配列したミ
クロフィブリルが、実質的に切断されている、
ことを特徴とする多孔性中空糸膜、(2) 結晶性高分子を用いた延伸開孔法において、
熱延伸を多段で行い、且つ、各段における延伸温
度を第1段では結晶性高分子の融点 T_m ($^{\circ}$ C)より
40~25 $^{\circ}$ C低い温度、第2段では T_m より25~10 $^{\circ}$ C低
い温度にし、第2段の温度を第1段より結晶性高
分子の融点に十分に近くすることを特徴とする多
孔性中空糸膜の製法、

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポ
リオキシメチレン等の結晶性高分子よりなり、血
液成分分離等の各種物質の分離に好適な新規なミ
クロ構造を有する多孔性中空糸膜とその製法に関
する、

(従来技術と問題点)

ポリエチレン等の結晶性高分子を用い、延伸開
孔法により得られる多孔性中空糸膜は、溶剤、可
塑剤を用いないので、医療、食品工業等の分野に
おいて、物質の分離等に使用されてきた。延伸開
孔法とは、結晶性高分子を溶融成形後、冷延伸に
より結晶ラメラ間に開裂を生ぜしめ、更に熱延伸
により孔拡大を行った後、熱固定により構造を固
定する方法を指すものであり、細孔は延伸方向へ
細長く配向したミクロフィブリルと、該ミクロ
フィブリルに対しほぼ直角に連結した結節部とに
より形成され、その細孔の構造は短冊状構造の基